

お知らせ

†「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい」

- ☆ ロザリオの意向：世界宣教の日にあたって、すべての宣教者たちが聖霊に力づけられ、その使命を果たしていくことができますように。
- ☆ 10 月はロザリオの月です。毎週日曜ミサ前 8：30 からロザリオの祈りを行います。
- ☆ 10 月 18 日（日）年間第 29 主日 世界宣教の日（特別献金） 大楠教会バザー
- ☆ 10 月 25 日（日）年間第 30 主日 和田墓地一般清掃 9:00～ ミサ 11:00～(雨天時 11/1)
- ☆ 11 月 1 日（日）年間第 31 主日 諸聖人
- ☆ 11 月 8 日（日）年間第 32 主日 アベイヤ司教様来訪 ミサ後茶話会
和田墓地追悼ミサ・納骨式 14:00～
- ☆ 11 月 13 日（金）いつくしみのチャプレット（15:00～）
- ☆ 11 月 15 日（日）年間第 33 主日 貧しい人のための世界祈願日 七五三の祝福
聖書週間（～11 月 22 日）

- ☆ 10 月 21 日（水）シンガポール巡礼団（29 名） 12:45～
- ☆ 誕生会について：今月に誕生日を祝う人は第 3 日曜日までに用紙に名前を書いて下さい。
- ☆ 門の開閉について、平日は防犯上、教会に出入りのたびに門を閉めていただくよう協力お願いいたします。

朗読当番：



カトリック大楠教会ホームページ：<https://www.ogusu-catholic-church.com/>

10 月の祈りの意向

教皇の意向：心の健康についての司牧

すべての教会で心の健康についての司牧が確立され、心の病から生じる偏見や差別を克服する助けとなりますように。

日本の教会の意向：宣教

宣教の実りを願って祈ります。「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」（マルコ 16・15）と言われたイエスのことばに従い、私たちが生活の中で福音の喜びを証しすることができますように。

共同祈願：

1. 教皇、司教、そしてすべての聖職者たちのために祈りましょう。彼らの忠実な献身と忍耐の模範が多くの人をキリストに導くものとなりますように。

年間第 29 主日

皆さん、今日の福音の中で、イエス様はこう言われます。

「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。」

私たちは普通この言葉を、「社会に対する責任も、神に対する責任も果たしなさい」という教えとして理解しています。しかし、今日はもう少し深く考えてみたいと思います。

神のものととは、いったい何でしょうか。私たちは神に何をお返しすればよいのでしょうか。

今日の福音では、ファリサイ派の人々がイエス様を罠にかけようと企み、自分たちの弟子たちをヘロデ派の人々と一緒にイエス様のところに遣わして、こう尋ねさせます。

「皇帝に税金を納めるのは、律法に適っているでしょうか、適っていないでしょうか。」

当時、ユダヤ人はローマ帝国の支配下にありました。もしイエス様が「税金を納めるべきだ」と答えれば、ローマ帝国の味方をしていると非難されるかもしれません。反対に、「納めるべきではない」と答えれば、ローマ帝国に逆らうよう人々に呼びかけているとして、訴えられる可能性があります。

しかし、イエス様は彼らの悪意に気づいておられました。イエス様は、税金を納めるための銀貨を見せるように言い、こう尋ねられます。

「これは、だれの肖像と銘か。」

彼らが「皇帝のものです」と答えると、イエス様は言われます。

「では、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。」

ここで大切なのは、銀貨に刻まれた肖像です。銀貨には誰の肖像、つまり誰の姿が刻まれているのでしょうか。皇帝の姿です。では、私たち人間は誰の似姿として造られたのでしょうか。そうです。神様の似姿として造られたのです

創世記には、神が人間をご自分にかたどり、ご自分に似せて造られたと書かれています。つまり、私たちは神の似姿として造られているのです。ですから、皇帝の肖像が刻まれた銀貨を皇帝に返すのであれば、神の似姿として造られた私たちは、自分自身を神にささげるよう招かれているのです。

私たちが神のものであるのは、何か特別なことをしたからではありません。神が私たちを造り、私たちを先に愛してくださったからです。ですから、自分自身を神にささげるのは、神に愛していただくためではありません。すでにいただいている神の愛に、感謝をもって応えるためなのです。では、どうすれば自分自身を神にささげることができるのでしょうか。それは、日々の生活の中で実践できます。

難しい状況でも正直に話すとき、私たちは神を敬っています。自分を傷つけた人を赦すとき、神のいつくしみを表しています。苦しんでいる人を助けるとき、その人の中に神の似姿を認めているのです。

聖マザー・テレサは、貧しい人や病気の人、見捨てられた人の中にキリストの姿を見だし、愛をもって仕えました。私たちも、孤独を感じている人の話に耳を傾けるなど、小さな行いを通して神の愛を示すことができます。しかし、時には私たちの言葉が人を傷つけることもあります。自分のことばかり考えて、他の人の苦しみに気づかないこともあります。だからこそ、日々の言葉や行いを通して、神様の愛を表していくことが大切なのです。

今日の第一朗読では、神はペルシアの王キュロスを選び、イスラエルの民を解放するために用いられました。興味深いことに、キュロスはイスラエルの神を知りませんでした。それにもかかわらず、神は彼を選び、ご自分の計画のために用いられたのです。そして神は言われます。

「わたしが主、ほかにはいない。」

キュロスもローマ皇帝も、大きな権力を持っていました。しかし、どちらも神ではありません。私たちが何よりも大切にし、従うべき方は、神おひとりなのです。

皆さん、私たちはミサのたびに、パンとぶどう酒を神にささげます。同時に、私たちの喜びや苦しみ、弱さと希望、日々の仕事、そして私たち自身も、イエス・キリストのささげものとともに神にささげるよう招かれています。

銀貨には皇帝の肖像が刻まれています。しかし、私たちには神様の似姿が刻まれています。私たちの心も、私たちの人生も、神様のものなのです。神様にお返しするのは、単に私たちの持ち物ではありません。私たちの心、そして私たちの人生そのものなのです。そして、その心を通して、神様の愛がこの世界に広がっていくことなのです。

今日、私たちの心をもう一度神様に向け、日々の生活を通して神様の愛を表していくことができますように。アーメン。